

大阪市立 平野西 小学校



住所 〒547-0034 大阪市平野区背戸口 4-1-31

連絡先 ☎ 06-6702-0872 📠 06-6797-0361

校長 中元 浩二 開校 昭和 13 年

URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751721>

教育方針



本校には、「健全」・「努力」・「親和」という校訓があります。また、校歌の中にも「はげむ子よ、元気な集い平野西校」・「はげむ子よ、仲よい集い平野西校」・「はげむ子よ、よい子の集い平野西校」と歌われています。この校訓、校歌に描かれた子どもの像を理想として、教育を進めていきます。

教育目標

豊かな心をもち、生きる力を身につけた子どもの育成

重点目標

- ・子どもたちが生き生きとしている学校づくりを推進する。
- ・一人ひとりの子どもに応じた基礎的、基本的学習内容の定着に取り組む。
- ・基本的生活習慣を身につけ、児童の自主的な活動を通して、集団としての自覚と、人間尊重を基礎とした行動ができるようにする。
- ・健康生活の基本的な習慣を身につけさせる。
- ・進んで課題を解決する子どもを育てる指導法を研究する。

運営に関する計画

【概要】

- 子どもが安心して学校生活を送り、落ち着いて学習できる環境を維持し、保護者・地域に信頼される学校をつくる。
- 確かな学力の定着を図る。そして、けがを減らすとともに、基礎体力の向上を図る。
- ルールに基づいた組織的な生活指導により、道徳心や社会性の育成を図るとともに、互いに認め合い支え合う仲間づくりをめざす。
- 学習ルールの徹底や読書指導に重点を置くとともに、ICTの効果的な活用と主体的、対話的で深い学びを目指した研究活動を通し、研修を深め、学力の向上を図る。
- 明るく整った環境を維持し、健康・体力の保持増進をめざす。

【年度目標】

【安全・安心な教育の実現】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、「総合的読解力育成カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を64%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を87%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を65%以上にする。

校長先生からのメッセージ

大阪市立平野西小学校は、昭和13年平野第二尋常小学校として開校した伝統のある小学校です。学校の正門を入ったところに校訓が書かれた碑が建っています。その碑には、「健全」「努力」「親和」と刻まれています。これは、お互いが健康であり、努力を惜しむことなく勉学に励み、仲よく学校生活を過ごしてほしいという願いで当時製作されたと思います。

この校訓は校歌の中にも歌われています。

「はげむ子よ、元気な集い平野西校」「はげむ子よ、仲よい集い平野西校」「はげむ子よ、よい子の集い平野西校」

今も昔も私たちが望む子どもの姿に変わりはありません。

現在、本校が掲げている学校教育目標は、『豊かな心をもち、生きる力を身につけた子どもの育成』です。校訓、校歌に刻まれた本校にかかわってきたみなさまの思いとともに教職員一同前進してまいります。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

校長 中元 浩二

R7 年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	理科	
63	54	49	平均正答率(%)

●結果と概要／

- ・国語の平均正答率は、大阪市平均より2%、全国平均より3.8%下回っている。
- ・算数の平均正答率は、大阪市平均、全国平均とも4%下回っている。
- ・理科の平均正答率は、大阪市平均より6%、全国平均より8.1%下回っている。
- ・学校生活については、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に対する肯定的回答が95.5%と高く、大阪市・全国ともに上回っている。この結果から、教職員の関わりが児童らに肯定的に捉えられていることが考えられる。また、「人の役に立つ人間になりたいですか」に対する肯定的回答が96.6%で大阪市・全国の平均を上回っている一方で、「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は70%弱で大阪市・全国平均を下回る結果が見られた。「人のために頑張ろうとする健全な姿勢」を「自分のよさ」として認められるような働きかけが必要と考える。最後に、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対する最も肯定的な回答が、わずかではあるが8割に届かない結果であったことは、依然課題として残っている。

●取組の成果と課題／

- 【国語】漢字の書き取りの問題では、大阪市・全国ともに上回る結果だった。これは、漢字学習において、ドリルの学習に加え、熟語集めや短文作りをする学習によって、単に漢字を「覚える」のではなく、「使える」ようにするための取組みを重ねてきたことの成果と考える。一方、課題は、記述問題の正答率についてである。「読むプロセス」を評価・支援する視点をもって読解力を育成する必要がある。
- 【算数】日々の練習の積み重ねと教員によるフォローアップによって、基礎的な計算力や知識は定着してきている。一方で、その知識をいかに活用するかが課題に挙げられる。子どもたちは、数や言葉の印象に引っ張られて直感的に答えを出してしまうことがよく見受けられる。国語科同様、算数科においても、問題文の文脈を読み、問題場面に合った式を立てるという「読解力」を育てることが必要である。
- 【理科】「電気」に関する問題の正答率は、大阪市を上回っており、実験をもとに知識がしっかりと定着していることがうかがわれた。一方、「問いを立てる」形で表現できるかどうかや、「学習したことをもとに考えたこと」について思考して表現できるかどうかを問う出題については正答率が低かった。主体的に学びに向かう力を育てることを意識して授業を改善することが必要である。
- 【質問紙調査】本校では、毎学期に1回「いじめといのちについて考える日」を設定し、全校および各学年・学級で、いじめやいのちについて考える学習活動を実施している。こうした、人権意識を高める組織的な取り組みを継続していくことで児童の人権意識を高めていきたい。

R7 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	14.38	17.59	33.48	38.81	54.30	9.27	163.03	18.76	53.26
女子	14.41	17.03	37.48	36.09	38.47	10.00	140.74	12.09	51.00

●結果と概要／

男子の結果では、体力合計点が大阪市・全国ともに上回った。一方、女子では、体力合計点が大阪市・全国を下回る結果となった。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」について、肯定的な回答をした児童の割合は、男女ともに90%を超える結果だった。男子の割合は、全国・大阪市ともにわずかに下回ったが、女子では全国・大阪市より5ポイント上回る結果だった。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合については、男子が大阪市・全国よりも高く(総運動時間が短い)、女子が大阪市・全国よりも低い(総運動時間が長い)結果となった。

●取組の成果と課題／

日々の学校生活において外遊びを奨励している。例えば、運動委員会の児童らが中心となり、活発に活動している。また、外遊びに消極的になりがちな冬季の休み時間に、講堂でなわとび集会を実施することで、児童の運動量を確保できるようにした。今回、20mシャトルランにおいて男女ともに大阪市・全国の平均を上回っている結果にもつながっているのではないだろうか。次に、質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」に関して、運動やスポーツに対する嗜好に二極化の傾向が見受けられる。女子が大阪市・全国ともに上回っている一方で、男子は大阪市・全国ともに下回っている。これは、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合でも同じ結果である。これらの結果を踏まえ、運動やスポーツを好まない児童もできるだけ楽しんで参加し、取り組めるような働きかけを児童らとともに考えて企画し、運営していきたい。

学校の特徴



地域と合同で行う防災訓練

地域や保護者、区役所・消防署と連携し、防災訓練を行っています。今年度も、パネルや物資展示、消防車の見学、防災グッズ作り、煙中、水消火器、負傷者搬送、心肺蘇生法等、学年に応じた様々な体験活動を実施した後、保護者の方々への引き渡し訓練を行いました。

楽しいクラブ活動

原則、毎月第2木曜日の6時間目、4年生以上の子どもたちが参加してクラブ活動を行っています。クラブ活動は全員必修で、13のクラブ活動に分かれ、子どもたちが自主的に計画を立て、楽しみながら異学年の交流を行っています。

1年間を通した児童会活動

1～6年の児童が学年をこえて、たてわり班を編成し、様々な交流をしています。コロナ禍のために活動の形態を変えて実施していましたが、コロナ以前の活動を取り戻しています。たとえば、毎週木曜日の児童集会は、校内放送でのみの実施から、運動場や講堂でのたてわり班活動を取り入れています。また、「1年生を迎える会」や「卒業生を送る会」は、オンライン中継から対面形式に、「平西フェスティバル」は、ペア学年の交流から各学級でお店を開き、たてわり班でお店巡りをする形態に戻し、いずれも全校で実施する形となりました。

